

【Aコース】

<p><b>A 犬山の霊長類と鶺鴒コース</b> (1泊2日)</p> <p>本コースでは、世界でも珍しい霊長類研究所、日本モンキーセンターの見学や実習、夜には伝統漁法木曾川鶺鴒と、アカデミックな体験をしていただきます。</p>	<p>定員 40名 (最小催行人数25名)</p> <p>参加費 [22,500円]</p>
<p>8月4日(木)</p>	<p>12:20 会場出発(バス内で昼食)→14:00 ①日本モンキーセンター到着(園内見学)→16:45 宿舎着、一度荷物を降ろす→17:30 ②鶺鴒乗船場にて乗船、夕食(船中食)→19:45 鶺鴒見学→20:30 宿舎に戻る(泊)</p>
<p>8月5日(金)</p>	<p>8:30 宿舎発→9:30 ③京都大学霊長類研究所(講義・施設見学)→同研究所で昼食(弁当配布)→13:00 ④日本モンキーセンター(講義・ワークショップ)→16:30 センター発→16:40 犬山遊園駅→18:00 名古屋駅着(解散)</p>
<p>宿舎</p>	<p>[犬山国際ユースホステル] 〒484-0091 犬山市大字継鹿尾字氷室162-1 TEL 0568-61-1111</p>
<p>愛知県の最北部に位置する城下町犬山は、国宝犬山城(現存する日本最古の天守閣)をはじめ観光都市として繁栄していますが、天然記念物ヒトツバタゴの自生地があるなど自然に恵まれた地域です。また霊長類については世界屈指の施設が2つもあり、ぜひ、ここ犬山で他では体感できない充実した研修をしていただきたいと思います。</p> <p>①1日目は、日本モンキーセンターを見学します。園内に飼育されている、世界最多の約70種900頭のサルたちをできるだけ数多く観察します。ここでの観察が、翌日のワークショップの重要な《予習》になります。</p> <p>②木曾川沿岸の峡谷は、その風景がヨーロッパのライン川に似ているところから「日本ライン」と呼ばれており、上流では「日本ライン下り」が行われるなど自然豊かな川です。夏の風物詩として日本の伝統漁法鶺鴒が行われ、約1,300年前から受け継がれた鶺鴒の衣装、漁法をお楽しみください。鶺鴒がおこなわれる日没までは船上で木曾川の自然を満喫することができます。</p> <p>③2日目は、まず京都大学霊長類研究所に向かいます。本研究所は、チンパンジーの「アイ」とその子どもの「アユム」をはじめ、高度な知能を有する霊長類の研究で有名です。「アイ・プロジェクト」などで彼らを用いて研究をなされている松沢哲郎教授の講演や施設見学を予定しています。</p> <p>④日本モンキーセンターでは、サルについての講義の後、実物の骨格標本を使ったワークショップを行います。バックヤードツアーや獣医さんのお話も計画しています。前日の《予習》を十分しておくことで、有意義なワークショップになること間違いありません。多種類のサルの全身骨格標本を直接手にとっての研修となります。</p>	
<p>注意事項 ◎1日目の昼食は含まれておりません。(別途ご用意下さるか参加申込時に注文して下さい) ◎暑さ対策をお願いします。乗り物酔いなど常備薬はできるだけ各自でお願いします。 ◎京大霊長研の松沢先生から、次の3冊を一読してから参加してもらいたいと指示が出ています。「新しい霊長類学」(京都大学霊長類研究所編、講談社ブルーバックス)、「おかあさんになったアイ」(松沢哲郎著、講談社学術文庫)、「人間とは何か チンパンジー研究から見えてきたこと」(松沢哲郎編、岩波書店)。なお、松沢先生は研究所長のため、突発的な公務が入った場合にはご講演いただけないこともあります。 ◎申し込み前に、<a href="http://www.aichi-seibutsu.com/jabe66/kenshyukouza.htm">http://www.aichi-seibutsu.com/jabe66/kenshyukouza.htm</a>で変更点や注意事項などを確認して下さい。</p>	



リスザル(日本モンキーセンター)



木曾川鶺鴒



学習するアユム君(実際の実習の見学はできません)